

高校生ICT Conference 2022 in 石川 を開催 ～ オンライン環境で「出来ること」「すべきこと」～



議論する生徒たちの様子

総務省北陸総合通信局（局長 小津 敦）は、令和4年10月2日（日）、金沢市の金沢勤労者プラザにおいて、高校生ICTカンファレンス実行委員会（委員長 米田 謙三）とともに、高校生によるワークショップ「高校生ICT Conference 2022 in 石川」を開催し、小松大谷高等学校、金沢錦丘高等学校、遊学館高等学校、金沢市立工業高等学校、金沢北陵高等学校及び敦賀高等学校の6校から35名の生徒が参加しました。

高校生ICT Conferenceは、電気通信事業者団体・企業・有識者・関係府省庁が連携し、青少年のインターネット利用環境整備を目指した事業として2011年から毎年度開催しているもので、今年度は全国14カ所で開催しています。

当日は、金沢向陽高等学校の林道雄先生の司会のもと、当局の山下治伸電気通信事業課長による開会挨拶に続き、第一部では、KDDI株式会社北陸総支社管理部の細川一人氏が「オンライン環境でできること」と題して講演しました。

第二部では、参加者を6つの班に編成し、「デジタル社会における学び方と学びの場ーオンライン環境で『出来ること』『すべきこと』」をテーマに議論を行いました。その結果を踏まえ、各班から、オンラインのメリットとデメリット、メタバースやVRを活用した授業の提案など、学校、企業、政府に望むことを発表しました。

最後に、金沢大学大学院教職実践研究科の加藤隆弘准教授が各班の発表を講評するとともに、「立場の少しずつ異なる皆さんがこれまでの経験を生かして現状の課題を洗い出し、議論することで多面的な考え方ができる。体験と思考を踏まえた具体的な提言が、より良い未来の実現に繋がる。」と生徒にメッセージを送りました。

なお、各班で取りまとめられた提言は、石川開催代表に選出された小松大谷高等学校1年の西澤美佑さんから、11月3日（木・祝）に東京で開催される「高校生ICT Conference 2022 in サミット※」において発表される予定です。

※ 昨年度の「高校生ICT Conference 2021 in サミット」の概要は次のホームページに掲載されています。

<https://www.good-net.jp/ict-conference/2021/tokyo2021/>



参加者の集合写真